

巻 頭 言

コミ福、20周年と「まなびあい」

コミュニティ福祉学会運営委員長

コミュニティ福祉学部学部長

三本松 政之

コミュニティ福祉学部は2018年度に1998年の開設から20周年を迎えました。私たちはコミュニティを基盤とした新たな福祉のあり方を提起し、多くの卒業生を送り出してきました。140年以上の歴史を持つ立教大学にあってはまだほんとうに短い歴史ですが、それでも振り返ってみれば、この20年の間にはいろいろな変化がありました。

コミ福は、1998年の設立時には1学部1学科体制で始まりました。昨年度の「まなびあい」の大会では、関正勝先生、福山清蔵先生、坂田周一先生、沼澤秀雄先生によるシンポジウムを開催し、コミ福のこれまでの展開の振り返りをしながら、学部創設時や大学院設置の際のいろいろなエピソードをうかがい、創設時からコミ福が大事にしてきた考え方などを共有する機会となりました。詳しい内容については本号に掲載されたシンポジウムの記録をご覧くださいと思います。

さて、20年を一区切りにするとコミ福の次のステージがどのようなものになるのが気になるかと思います。大学も、学部も時代の変化によるニーズに応じていく必要があります。おそらくそう遠くない将来に学部の再編が行われることもあるかと思います。コミ福の創設に関わった教員のメンバーは今では4人となりました。立教大学には「変わらない理念が立教大学を変えて行く」という考え方があります。

コミ福の変わらない理念は「いのちの尊厳のために」です。シンポジウムでは当初の「人間の尊厳のために」からこの理念へと変えたことについても触れられていますが、コミ福が築き上げてきた歴史の中で、その通底する部分は変えずに大事にしてきた理念であり、この理念は新しく加わられたメンバーにより、今後も変わることなく伝えられて行くものと考えています。

しかし、今日の社会では残念なことに、いのちの尊厳が問われる場面は決して減ることなく生じています。卒業生の人たちは社会人としての生活を送る中で、狭い意味の福祉の現場ではなく、いろいろな実践の場で、この理念の意味を改めて考える機会があったかもしれません。コミ福の卒業生、現役学生の皆さんのなかには、

この理念の意義を人に説明するのは難しいと感じてられる人も多いでしょう。でも、意識はしていないかもしれませんが、コミ福での学びを通して、しっかりとこの理念は体得されているのではないかと思います。コミ福での学びは決して机上のものではなく、日々の生活のなかに生かされて行くものと考えています。

そしてこのコミ福での学びを振り返り確認する場として、コミ福に関わった人たちの、「コミ福のためのコミュニティ」として、学内学会であるコミュニティ福祉学会「まなびあい」があります。1年に1度ではありますが、在学生、卒業生、教員が一堂に会し、語り合う場です。「まなびあい」は学部10周年事業の一環として2007年に設立されました。「まなびあい」の運営委員会に参加してみて分かったことは、多くの卒業生、現役学生、院生のみなさんが自発的に運営に参加してくださり、教員、事務局スタッフとともに活動を支えてくださっていることでした。運営委員会は週末の土曜日に開催されますが、仕事のある方に配慮し18時過ぎに設定されます。土曜日の夜にわざわざ「まなびあい」のために来ていただき、21時過ぎまで熱心に議論をしてくださいます。

コミ福の変わらない理念を「まなびあい」を通じ共有し続けるためにも、これからも多くの方に「コミ福のためのコミュニティ」としての「まなびあい」を支えていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。